



## ● 学長と学生の懇談会を開催しました

「学生の皆さんの生の声を聞いて、今後の大学運営に活かしたい」という大越学長の考えのもと、保健科学部、産業技術学部の学生と懇談会を開催しました。大学生活での出来事や、日頃感じていることなどを大越学長が聞く形で行われ、予定していた時間を超えて活発な意見交換の場となりました。

筑波技術大学ニュースでは、抜粋版をお伝えします。



保健科学部  
2017.12.13



産業技術学部  
2017.12.19



大越 教夫 学長

2015年4月から現職。神経内科医。

### 保健科学部の学生



河村 春花 さん

保健学科理学療法学専攻 4年



角田 岳志 くん

保健学科鍼灸学専攻 3年



平賀 慎一郎 くん

保健学科理学療法学専攻 4年



星野 隼人 くん

情報システム学科 3年



中尾 隆太 くん

保健学科鍼灸学専攻 4年

### 自己紹介

◆学長：それでは自己紹介をお願いします。趣味やサークルのことなど、なんでもいいですよ。

◆中尾：鍼灸学専攻4年の中尾隆太です。今は国家試験を控えているので参加回数が減っていますが、あん摩のサークルに積極的に参加して技術の向上を図っています。

◆角田：鍼灸学専攻3年の角田岳志です。技大に来る前は、1年間他の大学に通っていました。その後、訓練施設などを経て入学しました。

◆星野：情報システム学科3年の星野隼人です。ロッククライミングサークルで活動していて、趣味は、スポーツ全般です。バスケットなども楽しんでます。

◆平賀：理学療法学部専攻4年の平賀慎一郎です。4年間で一番頑張ったことは、臨床実習です。今は国家試験合格を目指して日々勉強をしています。

◆河村：理学療法学専攻4年の河村春花です。高校を卒業した後、盲学校に行き、理療マッサージ、指圧師免許を取得してからこの大学に来ました。

### 大学生活での思い出

◆学長：筑波技術大学で3年ないしは4年間過ごして、大学での思い出とか、何か印象に残ったことなどありますか？

◆星野：2年生の時に、友達と八丈島のユニバーサルキャンプに参加したのですが、そのキャンプに聴覚障害の方が結構いまして、会話の際にホワイトボードを使うことが多かったのが印象的でした。このキャンプで他の障害のある方に触れて、改めて視覚障害に向き合うことができ、点字を勉強しようという気持ちになりました。

◆学長：他の障害のある方とふれあい、気づきのあるよいキャンプになったようですね。

◆角田：自分たちのクラスは、全員でバーベキューなどをすることが多いです。少人数なのでまとまりもよく、学生が主体となって季節毎にイベントを企画しているのが良い思い出になっています。

◆平賀：私の4年間の一番の思い出は、人との出会いです。同級生や先生方と出会い、様々な面で助けてもらいながら4年間ここまでやってこられました。最後に恩返し

できるとしたら、やっぱり国家試験合格だと思っているので、合格に向けて必死に勉強していこうと思っています。

◆学長：臨床実習に行かれたということでしたが、一般の病院はどうでしたか？

◆平賀：近くの筑波メディカルセンター病院と筑波大学附属病院に行かせて頂いたのですが、急性期の病院で、理学療法士の先生方も大勢いらっしゃいました。沢山の先生方からご指導頂き、とても貴重な4か月だったと感じています。

◆河村：大学生生活の中で臨床実習が一番大変でしたが、その臨床実習での経験が私を成長させてくれたと思っています。知らない土地に行って、一人でやっていくのは本当に大変でしたが、友達との情報交換などを通じてクラスの絆も深まったので、いい経験になったなと思います。

◆学長：どちらの地域に行ったのですか？

◆河村：神奈川県と栃木県、茨城県です。

◆学長：病院では患者さんを受け持ちましたか？

◆河村：はい。とてもよい経験になったと思います。

◆中尾：私は、附属図書館をたくさん利用しました。様々な専門書の他に、授業や実習で分からなかったことがあると、すぐに調べることができるので、勉強しやすい環境でした。図書館を利用する中で、自ら取り組む姿勢も養うことができたので大きな成長につながったと思っています。

◆学長：図書館を積極的に活用してくれて本当に嬉しいです。図書館は鍼灸関係の本も充実していますよね。

## 課外活動で得たこと

◆学長：学外の活動で印象に残ったことはありますか？

◆中尾：つくばマラソンでマッサージボランティアをしました。授業の中では、スポーツをしている患者さんを施術する機会がありませんので、マラソンを完走した方々に対する治療方法を教員から指導して頂いて、すごくいい経験になりました。

◆角田：僕たちの時はマッサージボランティアの終了時間が早かったので、マッサージを求める方々と自分たちの施術時間が合わなくて、マラソン参加者との意思が合うようにやらなくてはいけないなと思いました。

◆学長：その意見を次の学年に伝えて、よりよい施術ができるといいですね。

◆星野：僕はパラクライミングに取り組んでいます。クラスに世界選手権で3連覇をしている友人がいるのですが、彼の紹介で始めました。最初は全然できなくて諦めかけていたのですが、同じ競技をやっている方と交流をしてくうちに輪が広がっていくことが楽しかったです。交流したいという気持ちでパラクライミングを続けて、今年の日本選手権で3位になれたことが、やっぱり嬉しかったですね。

◆学長：次の目標は優勝ですね。

◆星野：はい、そうです。頑張ります。



## 卒業後の進路

◆学長：4年生の皆さんは、卒業後の進路は決まっていますか？

◆河村：私は卒業した後、臨床実習でお世話になった病院に就職が決まっています。

◆学長：では臨床実習がインターンシップになったのですね。それは非常に良いことですね。

◆平賀：私は、国家試験に合格した後は病院での就職を目指しています。来年の4月から病院で働けるように頑張っていきたいと思っています。

◆学長：理学療法士は病院で働くことが多いですからね。まずは合格に向けて勉強ですね。中尾君はどうですか？

◆中尾：僕は、筑波大学附属視覚特別支援学校の理学療法科へ進学します。そこで西洋医学の生理学的な知識をより深めたいと考えています。理学療法士の資格を取ってから、仕事は鍼灸を中心に、ゆくゆくは開業できたらと考えています。

◆学長：理学療法も勉強することで、鍼灸に対する深みが出ると思うので良いですね。3年生の方はどんな進路を考えていますか？

◆角田：私の最終的な目標は開業です。そのためには、経験や経営力も養っていかなければと考えているので、まずは治療院に勤めて学んでいきたいです。

◆学長：卒業後すぐに開業は難しい面もあるかもしれませんがね。治療院で学んで、そこで自分なりのノウハウを身につけた後に開業するというのが良いかもしれません。星野君はどんな方面に進みたいですか？

◆星野：僕はこの大学に入学して様々な障害のある方に触れ合うことができたので、その経験を活かせるような製品の提案とか計画、企画などに携われたら良いかと思いません。

◆学長：企業で活躍したいということですね。皆さんきちんとした目標があって良いですね。

本日は楽しい機会を持つことができありがとうございました。皆さんが目標に向かってしっかり学び、卒業後、立派な社会人として活躍することを大いに期待しております。

## 産業技術学部の学生



平井 見奈 さん  
産業情報学科情報科学専攻 4年



太田 美菜子 さん  
総合デザイン学科 4年



中澤 優介 くん  
産業情報学科システム工学専攻 4年



外菌 猛 くん  
産業情報学科システム工学専攻 4年



西山 小百合 さん  
産業情報学科情報科学専攻 4年



森本 恵美 さん  
総合デザイン学科 4年

### 自己紹介

◆西山：情報科学専攻4年の西山小百合です。よろしく  
願います。卒業後は、製薬会社で働く予定です。趣味は、  
お笑い鑑賞と食べ歩きです。

◆平井：情報科学専攻4年の平井見奈です。卒業後は、  
小学校の先生を目指すために兵庫教育大学院の小学校教員  
養成コースに進む予定です。趣味は遊ぶことで、スケート  
が大好きです。

◆中澤：システム工学専攻4年の中澤優介です。大学卒  
業後は、自動車関係の会社就職予定です。趣味は、スポーツ、  
折紙を折ること、物を作ることです。

◆外菌：システム工学専攻4年の外菌猛です。よろしく  
願います。卒業後は、特別支援教育の免許取得のため  
に、上越教育大学の大学院に進学します。趣味は、手話の  
分析です。例えば、手話を見て、その人の手話の特徴だっ  
たり、この手話は何だろうというようにいろいろな分析を  
しています。

◆太田：総合デザイン学科4年生の太田美菜子です。卒  
業後は、新聞社のデザイン部に就職が決まりました。趣味  
は読書と散歩です。実家が東京なので、逆に自然のある所  
に行くのが好きです。今日はよろしく願います。

◆森本：総合デザイン学科4年の森本恵美です。卒業後  
は、システム開発をしている企業で働くことになりました。  
好きなことは、友人とおしゃべりをすることです。

### 大学生活での努力や思い出

◆学長：大学生活で努力したことや思い出を教えてください。

◆平井：私は学生会活動を通して人への感謝の気持ちを持  
つことができました。人とのつながり、人脈の大切さを  
学んだので、これからも人とのつながりは大事にしてい  
きたいと思っています。

◆中澤：大きな出来事はなかったですが、友達と話をし  
たり、食事に行ったり、勉強やアルバイト等、小さな思  
い出が沢山積み重なった大学生活でした。

◆西山：大学に来る前は、18年間同じ学校で過ごして  
いました。大学では、沢山の人の人に出会い、それぞれの考  
え方の違いを受け入れて、相手の気持ちを考えてコミュニ  
ケーションをとることの大切さを学びました。

◆学長：大学では人間関係が広がりますよね。コミュニ  
ケーション力は、今後、社会で必要になりますので、大学  
での経験が生きてと思いますよ。

◆森本：私は学園祭の実行委員長を務め、情報共有を大  
事にしてきました。友人との信頼関係を作ることを意識し、  
周りの支えのお陰で成功に導けたと感じています。就職す  
る企業を決めたのは、情報共有をととても大事にする会社だ  
と感じたからです。

◆学長：実行委員長という大役を務めた経験を就職に活  
かせたことが素晴らしいですね。

◆太田：私は大学内の課題だけではなく、外部のコンクール等に出品しました。出品するきっかけは、親しい先生からの情報提供でした。

◆学長：茨城県知事賞を頂きましたね。

◆太田：はい、他に茨城新聞社賞と二科展の本展も2回入賞しました。

◆外菌：僕はろう学校時代には同級生がいませんでした。技大では、同級生が15人に増えて、初めは緊張したり、戸惑うこともありましたが、勉強や生活を共にしていく中で、友達との関係を築けたと思います。

また、技大だけではなく、他大学に通う聴こえない学生が集まる場に参加して、人との出会いが増えました。「外菌君、技大なんだ、ちょっとしゃべろうよ。」と声を掛けてもらえることが多かったです。みんなもそうじゃない？

◆森本：言われます。

◆外菌：技大は聴覚障害者の中ではよく知られています。そのお陰で人との出会いが増えました。

## 大学への意見や要望

◆学長：大学に対して要望や意見はありますか？

◆平井：学生は色々意見を持っていると思います。それをどこに言えばいいのかわかりませんので、今日のような機会が増えたらいいなと思います。

◆学長：学生と対話の機会が少ないのは反省すべき点です。私は学生と直接話をしたいと思っているので、是非、学長室まで訪ねてきてください。

◆平井：学長室に伺うのは勇気がいりますし、いきなり意見を出すのは難しいので、普段からコミュニケーションをとれるといいなと思います。

◆太田：一緒にお昼ご飯を食べるとか。

◆森本：食堂にいらっしやいますよね。

◆学長：はい、いますよ。どういう形が良いのか検討して、皆さんの意見を気軽に発信できる場を作りたいと思います。

◆外菌：教職課程が設置され、教員免許が取れるようになりました。私としては特別支援学校の免許も取れるようになると、将来、先生を目指す学生が増えるのではないかと思います。

◆学長：特別支援学校の教職を目指して他大学に進学する方が増えてきました。すぐに実現することは難しいかもしれませんが、いずれ本学で取れるようにすべきだなと思います。

◆外菌：今、ツイッターやインスタグラムを利用している人が多いですね。そういうツールを使って、学生自身がPRしても良いのではと感じています。大学の情景だけでなく、学生の姿を載せたほうが、メッセージが伝わるのではないのでしょうか。

◆学長：確かにそうですね。広報室と相談しながら、今後学生と一緒に活動していけるようにしていきたいですね。



## 高校生へのメッセージ

◆学長：技大でよかったことや、技大に入学したい高校生に一言ありますか？

◆森本：自分の得意なことを見つけられなくて悩んだ時期もありましたが、一眼レフカメラと出会い、撮影技術や写真のレイアウト力を身につけることができました。卒業研究では総合デザイン学科で学んだ4年間を活かせる作品を作っています。高校時代は何ができるのか、したいのかわからなくても、技大での4年間で見つけられるのではないかと思います。

◆太田：技大は少人数教育なので、先生に顔を覚えてもらえます。先生と仲良くなり、色々なサポートやアドバイスを頂けて、自分の可能性が広がりました。自分がやりたいことが本当に自由にできる、そういう理想の大学だと思っています。

◆西山：つくばは暗くて怖い田舎というイメージでしたが、実際に住んでみて、おいしいご飯屋さんや、パン屋など学生に優しいお店がたくさんありました。友達と遊びに行く場所も多いし、つくばに来てよかったと思います。

◆平井：勉強を頑張れば授業料免除が受けられるし、近隣にはアルバイトができるお店もあり、両立できる環境があります。迷っている人は、まずは技大を見に来てほしいですね。

◆外菌：先生方が聴こえない人を理解してくれて、その人に合った方法でコミュニケーションをしてくれます。手話や筆談等で、例えばこの機械はどういうメリットがあるか等のディスカッションをすることができ、学びを深めることができたと思います。

◆中澤：高校までは親や先生に頼ることが多かったですが、大学では自分でやる機会が増えて自立できたことが大きな成長でした。どの思い出もとても大切で、充実した4年間でした。

◆学長：本日は本当に貴重な機会をありがとうございました。卒業後、皆さんが筑波技術大学を卒業して本当に良かったと思えるような大学づくりをしていきたいと思えます。皆さんが大学で得た大切なものを胸に、社会で活躍してください。

## ● 本学の研究成果を CEATEC Japan に出展

新たな産業革命と言えるデータ駆動型、また情報活用型社会到来に向けたモノ・サービス・テクノロジーを一堂に会し、新たなビジネスの創出と先進的技術および情報の交流、社会的課題の解決策の提案を行い、一層の産業の発展と生活の向上および社会への貢献を促すことを趣旨として、10月3日から6日まで幕張メッセで開催された CEATEC JAPAN 2017 (シーテック ジャパン 2017) に、本学の研究成果を出展しました。

本学は、SIP (戦略的イノベーション創造プログラム) 「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」において、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) の委託業務として、「統合データマネジメント基盤の研究開発」に、国立情報学研究所、北海道大学、長岡技術科

学大学とともに参加しています。産業技術学部の倉田成人教授を中心に、自律型時刻同期マルチセンシング技術の研究開発を進めていますが、研究成果である「チップスケール原子時計を搭載した自律型時刻同期マルチセンシングモジュール」の展示を行いました。この技術が実用化されると、世界中どこでもセンサをばらまくだけで、正確な時刻情報を付与した計測データが得られるようになり、社会インフラの維持管理等を目的としたビッグデータ分析に活用できます。

登録来場者数は 152,066 人に上り、国内最大級の先端技術の展示会で、本学の技術力を示すことができました。

(広報室)



出展の様子

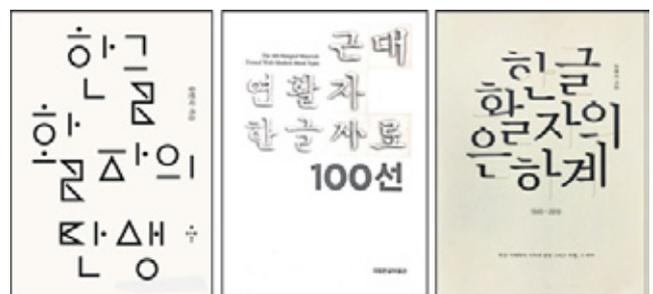
## ● 近代活字印刷史文化史研究

産業技術学部総合デザイン学科の劉賢国教授は、ハングル活字史・書体史と多言語活字印刷文化史の研究を 1996 年から本格的に始めてから、研究期間は今年で 21 年になります。その近代活字印刷史文化史研究の集大成として 2015 年度に大型版の『ハングル活字の誕生 (1820-1945)』と 2016 年度韓国国立博物館で『近代鉛活字ハングル資料 100 選』、2017 年度『ハングル活字銀河系 (1945-2010)』が刊行され、世界中の図書館に贈られています。

研究内容は主に韓国 (KBS、朝鮮日報、連合ニュース等) そして日本、中国の新聞やインターネットなどで紹介され、各国から招聘され講演も行っています。特に韓国政府から学術研究の貢献が認められ、2015 年度は韓国出版大賞 (学術部門候補選定)、韓国デザイン文化フォーラム (学術最優秀賞)、韓国出版文化振興院 (世宗学術優秀賞、コンテンツ優秀賞)、2016 年度は韓国出版研究所 (学術優秀賞) を授与されました。

劉賢国教授の芸術を人文学につながる架橋の役割の研究姿勢は、日本を含めて今までの活字史研究者にはなかった新鮮なアプローチです。

(総合デザイン学科長 長島一道)



出版された書籍

## ● 総合研究棟竣工記念式典を挙行



総合研究棟の外観



テープカットの様子

9月5日 火曜日、天久保キャンパスにおいて、総合研究棟の竣工記念式典を挙行了しました。総合研究棟は、大学院生の研究施設の充実、聴覚・視覚障害者に対する技術開発や情報保障システムに関する研究の充実等、本学の教育、研究、社会貢献に係る取組を一層推進することを目的とし、施設整備補助金及び自己財源によって建設されました。

式典には、文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課長の藤井氏をはじめ来賓の方4名、本学関係者約50名が

出席しました。大越学長の挨拶の後、藤井計画課長から祝辞があり、続いて、つくば市長の祝辞（津野保健福祉部次長代読）の後、テープカットを行いました。さらに式典後には施設見学が行われ、それぞれの研究室で現在取り組んでいる研究内容について、来賓の方々へ説明する様子が見られました。

この竣工記念式典の様子は、NHKの他、多くの新聞等において報道されました。

（総務課、企画課）

## ● ボルダリングウォールが完成



デモンストレーションの様子

天久保キャンパス体育館の武道場に、ボルダリングウォールが完成しました。大きさは幅6m、高さ4m、壁面は90度と103度が1面ずつ、視覚に障害のある方が見やすいように壁面を黒色とし、コントラストを強調したホールドを使用しています。

11月21日 火曜日にオープニングセレモニーが行われました。NPO法人モンキーマジック代表の小林幸一郎様から祝辞を頂いた後、IFSCクライミング世界選手権パリ2016のパラクライミング種目視覚障害B2の優勝者で保健科学部情報システム学科3年の會田祥君を中心としたボルダリングサークルの学生4名によるデモンストレーションが行われ、世界チャンピオンの試技に会場から歓声が上がりました。

（総務課、企画課）

## ● 手話フォンを設置



外観



会話の様子

天久保キャンパス学生会館1階に、手話フォンが設置されました。手話フォンとは、耳の聞こえない人が電話する際に利用する電話リレーサービス（聴覚障害者がオペレーターに手話で伝えると、オペレーターが先方に代わりに電話してくれるサービス）を公衆電話型で受けられる日本財団の設備です。本学への設置は羽田空港に続いて全国で2カ所目となり、午前8時～午後9時の間、無料で利用することができます。

12月4日 月曜日に開催した設置セレモニーでデモンストレーションに参加した学生は、「今まで家族に電話してもらっていた用件も、自分で対応できるようになる。細かい内容を手話で伝えられるので活用していきたい。」とコメントしました。

（総務課、企画課）

## ● デフリンピックで金メダルを獲得

2017年7月にトルコ・サムスンで開催された第23回夏季デフリンピック競技会(※1)において、技術科学研究科産業技術学専攻1年の設楽明寿さんが陸上男子4×100mリレーに出場し、陸上男子日本代表で初めてとなる金メダルを獲得しました。

帰国後に本学で開催した報告会の際に設楽さんは「国民の皆様から多数ご声援を頂き重責を感じていましたが、金メダルを獲得できてほっとしています。準決勝前に怪我をしてしまいましたが、仲間達が信じてくれてバトンをつなぐことが出来ました。」とコメントしました。この報告会の様子は多数のメディアに取り上げられました。

この活躍が認められ、本学での学長賞をはじめ、文部科学大臣表彰、地元群馬県の「群馬県スポーツ賞顕彰スポーツ栄誉賞」等を受賞しました。

なお、文部科学大臣表彰においては、デフリンピックで入賞した卒業生6名も受賞しています。

「初めて出場したデフリンピックでの金メダル獲得を皆さんに喜んで頂き、大変嬉しく思います。今後も一つ一つしっかりと練習を重ねて努力していきます。

4年後、8年後もまだ競技を続けていきたいですし、もっとデフリンピックに注目してもらいたい。そのための活動を積極的に行っていくとともに、自分の活躍がきこえない子供たちに夢を与えられたら幸せです。」と話す設楽さん。今後益々の活躍が期待されています。

(広報室)



決勝の様子(ゼッケンNo.189が設楽さん)



リレーメンバーとの喜びのショット



報告会見の様子



文部科学大臣表彰

上段左から、宇賀耶 早紀さん(バレーボール女子1位)  
品田 千紘さん(バドミントン女子ダブルス4位)  
岡部 祐介さん(陸上男子4×400mリレー5位)  
下段左から、中村 晃大さん(陸上男子三段跳び7位)  
加賀 充さん(バレーボール男子7位)  
成木 俊介さん、(バレーボール男子7位)  
設楽 明寿さん(陸上男子4×100mリレー1位)

※1 デフリンピック：4年に1度、世界規模で行われる聴覚障害者のための総合スポーツ競技大会

写真提供：全日本ろうあ連盟、群馬県庁



群馬県スポーツ賞授賞式の様子